

# グリーン・ツーリズムの持続的な推進に向けた 運営システムの再編に関する基礎的研究

## —群馬県みなかみ町「たくみの里」を事例として—

### A Fundamental Study on Reorganization of Management System toward Sustainable Promotion of Green Tourism

#### -A Case of Takuminosato, Minakami Town, Gunma Prefecture-

氏名 鬼山 るい

指導教員名 中島 正裕

#### 1. はじめに

1990年代以降、グリーン・ツーリズム(以下、GT)は農業農村政策分野における重要施策として位置付けてきたが、持続性に関して様々な課題を抱えている。近年では広域合併による行政の関与の不明瞭化や、GTを牽引してきた主要人物の高齢化などに伴う、GTの運営システムの再編が重要な課題となっている。しかし、先行研究ではシステムの定性的な実態の分析に留まっており、具体的なシステム再編の検討に向けては、定量的分析も加えシステムを構成する組織間関係の解明をより実証的に行うことが必要である。

そこで本研究では、GTの運営システムを構成する組織間関係に定量・定性的側面から着目し、各組織からみた他組織との関係の解明(目的①)と、運営システム全体からみた組織間関係の解明(目的②)を行う。

#### 2. 研究方法

##### 2.1 調査対象地の概要と抱える課題

対象地は、群馬県利根郡みなかみ町(旧新治村)にある「たくみの里」を選定した。1978年以降、9つの野仏を巡る「野仏巡りコース」や伝統工芸体験が行える「職人の家」(現在29軒)が村主導により設置され、現在年間30万人が訪れるGTの先進地域となっている。広域合併(2005年)以前は、(公財)農村公園公社が中心として「たくみの里」の運営システムが構築されていた。しかし、広域合併や2012年の農村公園公社の一般財団法人化などにより、現在「たくみの里」の運営システムを担う主体が不明確となっている。このような状況の中、2015年度より「たくみの里イノベーションプロジェクト(以下、TIP)」が始動し、「たくみの里」に關係する主な組織の中堅・若手が中心となり今後のGTの運営システムのあり方などを検

討している。本研究で組織間関係を解明することは、TIPでの各種議論の一助となると考える。

##### 2.2 研究の手順と方法

目的①では、まず先行研究と予備調査から「たくみの里」の運営システムを構成する主要組織を調査対象組織として抽出し、その概要を把握する。次に各組織からみた他組織との関係の中でGTに関するものをヒアリング・文献調査により把握し、関係内容を分類する。目的②では、「たくみの里」全体における組織間関係を分類項目別に分析する。また、それらを重ねあわせ運営システム全体からみた組織間関係の特徴を分析する。ここでは、組織間関係を定量的に評価する手法として社会ネットワーク(以下、SN)分析<sup>(※1)</sup>を援用し、指標として次数中心性と媒介中心性<sup>(※2)</sup>を用いる。

#### 3. 組織別にみた他組織との関係の把握

##### 3.1 主要組織の抽出と組織間関係内容の分類

主要組織として抽出した9組織とその理由を表1に示す。組織間関係を示す紐帯は34組織との間に延べ212本把握でき、関係内容は「物品・金銭」「業務」「人」「情報」の4つの分類に区分できた。

##### 3.2 主要組織別にみた他組織との関係実態

公社を例として他組織との関係を整理した結果を図1に示す。このうち「物品・金銭」では、農政課から5つの都市農村交流施設を無償で提供されている(②)他、生産者から農作物を買い取っており重要な出荷先となっている(⑳,㉑)。「業務」

表1 調査対象組織

組織区分	組織	選定理由
行政	みなかみ町役場農政課	農業振興や公社の管理
	みなかみ町役場観光課	「たくみの里」を開設時からサポート
	みなかみ町役場まちづくり交流課	商工振興・地域振興に関与
非営利	新治地区まちづくり協議会	地域住民が地域活動を議論・実践
	NPO法人たくみ会	多くの個人事業主が加入している
	みなかみ町商工会	
駒形地域活性化の会		
法人	(一社)みなかみ町観光協会	運営システムの中核を担っていた
	(一財)みなかみ農村公園公社	

では、農政課・観光課から各1つの都市農村交流施設の管理運営を受託(①, ⑩)し、個人事業主から周遊馬車事業の協力がある(⑮)。「人」では、観光協会などへ会員として入会している(⑰, ⑳, ㉕)。「情報」では、農政課やたくみ会の会員と定期的に意見交換を行っている(⑥, ⑭)。

他組織でも上記と同様に分析した結果に基づき各組織の主な役割を以下に述べる。農政課・観光課はそれぞれ農業面・観光面で地域の組織に対し物品・金銭の補助をしている。観光協会は観光課と個人事業主との間の金銭や情報の仲介をしている。活性化の会は金銭の支援を受けつつ個人事業主と住民を巻き込んだ活動をしている。

#### 4. 運営システム全体からみた組織間の関係の解明

##### 4.1 分類項目別にみた組織間の関係実態

3章で組織別に把握した組織間の関係を、SN分析を用いて関係内容の分類項目ごとに分析した。その際、ある組織間に同じ分類項目である関係が複数あった場合、それらの関係を1つとして計算した。ここでは、「情報」を例にあげ、組織間の関係図と中心性を図2に示す。次数中心性は、入・出次数共に交流課(入次数10, 出次数10)・商工会(10, 10)・活性化の会(12, 12)で比較的高い一方で、農政課(1, 1)とたくみ会(4, 3)では低く、情報共有において組織ごとに格差がある。また、活性化の会は媒介中心性が相対的に高く(0.1195)、個人事業主と自治組織を繋げていると考えられる。

他の分類項目においても同様に分析した結果、「物品・金銭」と「業務」では公社の次数中心性及び媒介中心性が高く、これらの分類項目において公社が関係の中核を担っていること、「人」ではまちづくり協議会・観光協会・商工会・活性化の

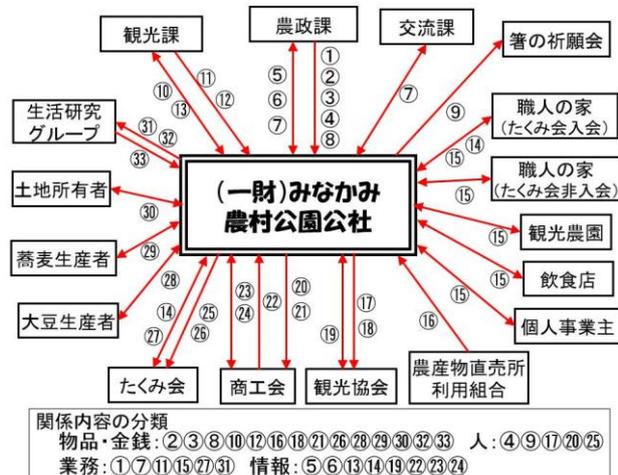


図1 他組織との関係(公社)

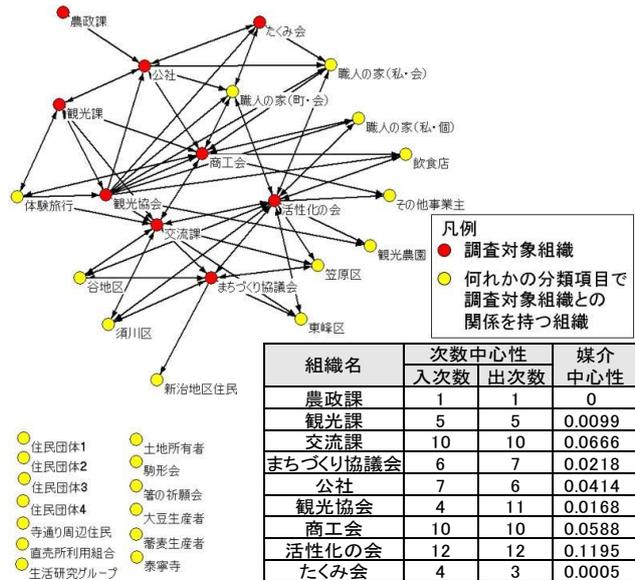


図2 組織間関係図と主要組織の中心性(情報)

会は入次数が高く、多くの組織が加入していることが明らかとなった。

##### 4.2 運営システム全体からみた組織間関係の特徴

運営システム全体での組織間関係における特徴を明らかにするために、4.1で分類項目別に捉えた組織間関係を重ね合わせSN分析を行い、各組織の関係する組織数と1組織あたりの分類項目数などを比較した。ここでは紙面の制約上、結果に関する図表は割愛する。その結果、たくみ会は関係のある組織は比較的少ない(8組織)が、1組織あたりとの関係が密(平均2.63分類項目)であること、交流課は関係のある組織は比較的多い(12組織)が、1組織あたりとの関係が少ない(平均1.42分類項目)こと、住民組織や生産者は運営システムにおける主要9組織との関係が少ない(重み付き次数中心性: 1~5)ことなどが明らかとなった。

#### 5. おわりに

今後は、本研究での成果を役場の実務担当者及びTIPに還元し、GTの運営システムの再編に向けた計画策定及び具体的な課題解決方法の検討を行うことが必要である。

##### 注釈

※1 SN(Social Network)分析とは、さまざまな「関係」のパターンをネットワークとしてとらえ、その構造を記述・分析する方法(安田、2006)である。

※2 「次数中心性」は値が大きいほど多くの組織とつながりがあることを表す。次数は入次数と出次数に分かれ、「入次数」は他の組織からその組織に向かう線の数を、「出次数」はその組織から他の組織に向かっている線の数を表す。「媒介中心性」は0~1の値をとり、値が大きいほど組織間の橋渡しの役割が大きいことを示す。